

国の華幼稚園が北海道知事最優秀賞を受賞

国の華幼稚園(函館市)は、森と人を育てるコンクール実行委員会から、当会主催の「未来の森・函館植樹祭の14年間に及び毎年参加」などが高く評価され、北海道知事最優秀賞を受賞した。



この偉業は、「子孫からの借物である豊かな北の森を育み緑も人の心も豊かな北の大地にしよう」がコンセプトの当会にとっても、同慶の至りとなった。

当会ホームページがスマホ対応でリニューアル

当会のホームページが一新しました。当会の取り組み、法人情報、活動報告、活動紹介、森林・樹木葬、役員名簿、森のささやきバックナンバーなどが、スマホ/パソコンの何れでも閲覧可能になりました。

「北海道に森を創る会」[検索](#)でご覧いただけますので、ぜひご活用ください。

樹木葬墓地を研究する伊達市の有志と意見交換

当会が森林利用の一環として取り組んでいる「森林・樹木葬」の促進を目的に、樹木葬墓地を研究する伊達市の有志の皆様と現地を見ながら意見交換を行った。



樹木葬研究対象の現地を見学

<お知らせ>

◎当会のホームページが新しくなりました

詳細は、上記の「トピックス」で紹介しており、ますので、ご覧ください。



〒064-0808  
札幌市中央区南8条西2丁目5-74  
(市民活動プラザ星園405号)

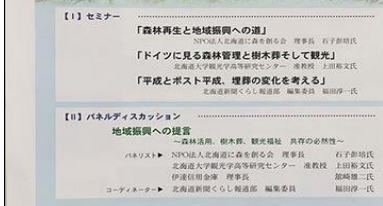
携帯電話 090-1385-5946  
Eメール moriotukuru@nifty.com  
勤務予定日時 火曜日、木曜日10:00~16:00

石子理事長が森林活用セミナーの講師

昨年2月9日に伊達市内で開催された「セミナー/地域への提言」の講師に、当会の石子理事長が登場した。

「森林再生と地域振興への道」をテーマに、当会が進めている森づくりの取り組みの紹介やインバウンドに向けた記念樹などを画像を交えながら講演した。

更に、森林・樹木葬で連携の上田裕文北大准教授の「ドイツ方式を含む樹木葬墓地」、福田淳一道新編集委員の「埋葬の変化」の講演に続き、「森林活用、樹木葬、観光福祉、共存の必然性」をテーマに3人の講師などによるパネルディスカッションも行われた。



セミナー「地域振興への提言」のパンフと講師の石子理事長

編集後記

新元号「令和」を迎えた北海道は、鈴木道政の誕生、東京オリンピックの一部開催、相次ぐJR鉄道の廃止、種々の国際紛争など、多くの変動にさらされています。

一方、総面積の約70%を占める北海道の森林たちは、北の大地創造の太古から数多くの厳しき試練に耐え、泰然と北海道を育み、支え続けてきました。

そして、現在も「大自然の源流」の役割に加え、生活環境、防災、保健・休養、更に経済面など、掛け替えのない必要不可欠な存在になっております。

このような状況下、当会の働きかけなどが功を奏した北海道植樹の日、育樹の日の条例化は、北海道150年のテーマ「151年目の一歩を踏み出す」にも整合し、日本の森林王国として、更なる役割が期待されます。

本号では、当会の同条例化モデル事業としての「令和記念樹の森」を当会の北海道150年記念事業とともに特集として取り上げました。

<編集>理事 岡田隆範

NPO法人北海道に森を創る会事務局 発行

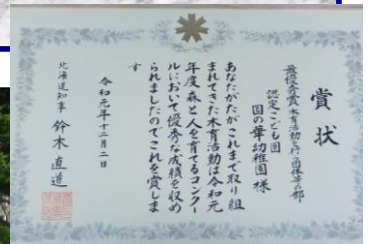
森のささやき

ささやき

会員ジャーナル 第14号  
2020年1月 発行



特集 北海道150年記念事業の現状と展望



北海道知事最優秀賞を受賞した国の華幼稚園の皆さんと表彰状



「北海道150年(平成30年)」に実施した当会の「森づくり関連の4つ記念事業」は、どれも当初の予想を上回る実績につながりました。特に、当会の働きかけなどによる「北海道植樹の日、育樹の日」の条例化は、北海道の森づくりの拠り所として、今後の効果が多いと期待されます。

そこで、当会が「北海道植樹の日、育樹の日」のモデル事業化を目指す北海道150年記念の実績に触れ、その中でも今後の森づくりに有望視される「令和記念樹の森・八雲」について紹介いたします。

◇当会の北海道150年記念事業の事績

(1) 北海道植樹の日、育樹の日の条例化

\* 当会を含む森林関連団体の要望などにより実現



(出典:北海道発行の植樹の日、育樹の日の広告)

(2) 「茨木記念の森・八雲」植樹祭(5月10日、37名参加)



岩本八雲町長を含む地元と一緒に150本の植樹と記念碑の建立

(3) 「未来の森・函館」記念事業

\* 春季(5月11日、51名参加)、秋季(10月20日、27名参加)



園児と一緒に植樹祭

地元と協働で野鼠対策

(4) 「元気の森えりも」植樹祭(6月4日、30名参加)



バットの木アオダモ150本を記念植樹

◇「令和記念樹の森・八雲」の森づくり事業の紹介

1. これまでの経緯

・月形町山林地の寄贈と森づくり(2006年~)

奈良県の茨木時子様は、当会のコンセプトや森林トラスト運動の趣旨に賛同し、月形町に所在する約20haの山林地を当会に寄贈された。当会は、「茨木記念の森・月形」と名付け、除間伐や枝打ち、下刈り、植栽など森づくりに取り組んだ。



森づくりを進めた「茨木記念の森・月形」

・再度道内3箇所山林地を寄贈(2013年~)

茨木時子様は「茨木記念の森・月形」における当会の実績を評価し、更に3ヶ所(ニセコ町、壮瞥町、八雲町に所在)山林地を当会に寄贈された。

当会は、その中で森づくりに有望な八雲(約4.6ha)に着目し、「茨木記念樹の森・八雲」と命名した。

・高林齢人工林の皆伐と跡地の造成(2016年~)

スギ、トドマツの高林齢人工林を皆伐し、跡地の整地や約3,000本の植栽などの森づくりに着手した。



高林齢のスギ、トドマツの皆伐跡地に、森づくりに向けて植樹

・現状調査、令和記念樹の森・八雲の命名(2017年~)

2016年秋、皆伐跡地部分(約1.5ha)における鹿や兎などの被害状況や成育状況などの調査結果を勘案し、新元号令和に向けた新たな展開を期して「令和記念樹の森・八雲」と命名した。

なお、「令和」の文字を部首に分解し組み立てると「命ノ木」となり、森づくりと縁深い名称にもなった。



今後の検討に先立ち、動物の被害状況や台風の影響などを調査

2. 今後の展望

企業や個人の負担金を財源に、桜などの広葉樹が主体の「憩いの場」の造成を目指す。

令和元年の主な活動報告

(1) 未来の森・函館

\* 春の行事(5月9日、52名参加)

国の華幼稚園児、渡島総合振興局や函館サンモリッツくらぶなど地元の皆様と一緒に、昨年秋に装着した野鼠防止用袋の取外し作業を行い、園児全員でナナカマドを植樹した。



幼稚園児と共同作業で、楽しいひと時

\* 秋の行事(10月25日、37名参加)

渡島総合振興局など地元と協働で、野鼠被害防止袋や鹿防止用ネットの取り付け、枝打ちなどの作業を行った。



37名が連携し、厄介な作業も力を合わせて無事完了

(2) 茨木記念の森・八雲/令和記念の森・八雲

(主伐跡地の現状調査、10月25日、13名参加)

動物の被害や生育状況など調査し、令和記念樹の森・八雲の今後について検討した。



今後の方針策定に向け、現況を調査

(3) 北海道・木育フェスタ2019に参加

「北海道・木育(もくいく)フェスタ」とは、北海道、林野庁北海道森林管理局、北海道森と緑の会が主体となり、道民参加による協働の森づくりを推進するために、森林関連のイベントを一体的に開催する方で、当会も以下のイベントに参加した。

①開会式、緑の募金(5月11日、道庁庁舎前庭)

\* 初年度の「北海道植樹の日」に開催



開会式、記念植樹に臨席した石子理事長

「北海道植樹の日、育樹の日」のPR用大看板

②国民参加の森づくりシンポジウム

(10月12日、北海道大学大講堂、2名参加)

北海道主催の記念講演、事例発表、パネルディスカッションなどで構成されたイベントで「木育」が話題の中心となった。

③第70回北海道植樹祭・育樹祭

(10月19日、苫小牧市和みの森、12名参加)

\* 初年度の「北海道育樹の日」に開催  
\* 来年同地で開催予定の全国育樹祭に先駆けて開催



来年の全国育樹祭に向けて育樹作業に奮闘する参加者

小雨の中の作業を終え、一安心の笑顔で記念撮影

令和2年度の主な予定

今年の主な行事予定を紹介いたします。詳細が決まり次第、別途ご案内申し上げます。

(1) 令和2年度通常総会

日時 令和2年4月28日(火) 15時~  
場所 市民活動プラザ星園 2階中会議室  
(札幌市中央区南8条西2丁目5-74)

(2) 未来の森・函館

春季行事 5月15日(金) 秋季行事 10月予定

(3) 茨木記念の森・八雲/令和記念の森・八雲

春季行事 5月予定 秋季行事 10月予定

(4) 全国育樹祭の「お手入れ行事」に参加

10月3日(土) 苫小牧市 和みの森

今後の展望

(1) 森づくりの取り組み

- ①森林トラストによる森づくりの推進  
未来の森・函館、茨木記念の森・月形、茨木記念の森・八雲内の令和記念の森・八雲
- ②森林トラストで取得した森づくりの検討  
濱田の森・砂川、茨木の森・ニセコ、壮瞥
- ③森づくりに伴う間伐材などの活用

(2) 森づくりの支援

- ①森林・樹木葬の森づくりに関する支援
- ②道内各地の「元気の森」の支援
- ③インバウンドによる旅行記念植樹の支援

